

トリアージ訓練を実施しました!!

医療情報管理室 神原 勝己

3月に発生した東日本大震災。震災によりおびただしい数の死者・行方不明者・負傷者が発生し、1か月以上経過したいまも復旧の目処が立っていません。震災後、医療機関には負傷者が殺到し、地震の被害により医療設備が十分機能しない状態で医師・看護師らスタッフは懸命の救命活動を続けています。

このような設備・資源・人材に限られた状況下で、多数の負傷者を的確かつ効率的に治療するには、緊急性の高い患者から治療を開始する『選別』が必要になります。

『トリアージ』とはフランス語で『選別』を意味し、患者を状態ごとに緑・黄・赤・黒に選別することで迅速かつ適切に対応する仕組みです。

救急車や徒歩で来院された患者さんはまず玄関ホールでトリアージ担当の医師により状態を判断され、症状に応じた色のトリアージタグを腕に装着されます。



トリアージタグの色は以下の状態を基準に決定されます。



- 黒** 死亡、もしくは救命が不可能
- 赤** 生命にかかわる状態で、最優先に処置が必要。
- 黄** 生命にかかわる状態ではないが、早期に処置が必要。
- 緑** 軽度の病症、および救急での搬送が必要ない。

トリアージタグを腕に付けた患者さんは、歩ける方は徒歩でタグの色のエリアへ。動けない、意識が無い方はストレッチャーや担架、それらが足りなくなったらシーツを張り、6人がかりでそれぞれのエリアへと運ばれていきます。各エリアでは担当の医師が患者を診断・治療します。

また、病院2階に設置された災害対策本部では、岡田院長を中心に情報の整理と各部署への陣頭指揮が行われます。ツアーバスの事故を想定し患者役は50名。事前にシナリオを知らされずに参加した職員は、次々と救急車で運ばれてくる大量の負傷者への対応に声を上げます。パニックを起こす患者役、意識不明の患者役、早く診てくれと騒ぐ患者役。リアルな雰囲気の中で訓練は2時間で終了しました。

終了後の講評では、西条市消防本部よりタグの重複に関する問題。職員からは患者の動線や情報伝達について問題点が指摘されました。最後に石井副院長より、今回の訓練で明らかになった問題点を検討し、災害に備えるべく『トリアージ委員会』の設立が提案されて散会となりました。

当院ではいままでも定期的にトリアージ訓練をしてきましたが、今回は事前にシナリオが明かされず、より実践的な訓練が院内で繰り広げられました。近い将来起こるであろう南海地震に備え、トリアージ対応能力をより一層高める必要があると実感した訓練でした。



病気の おはなし



白内障について

眼科 篠崎 友治

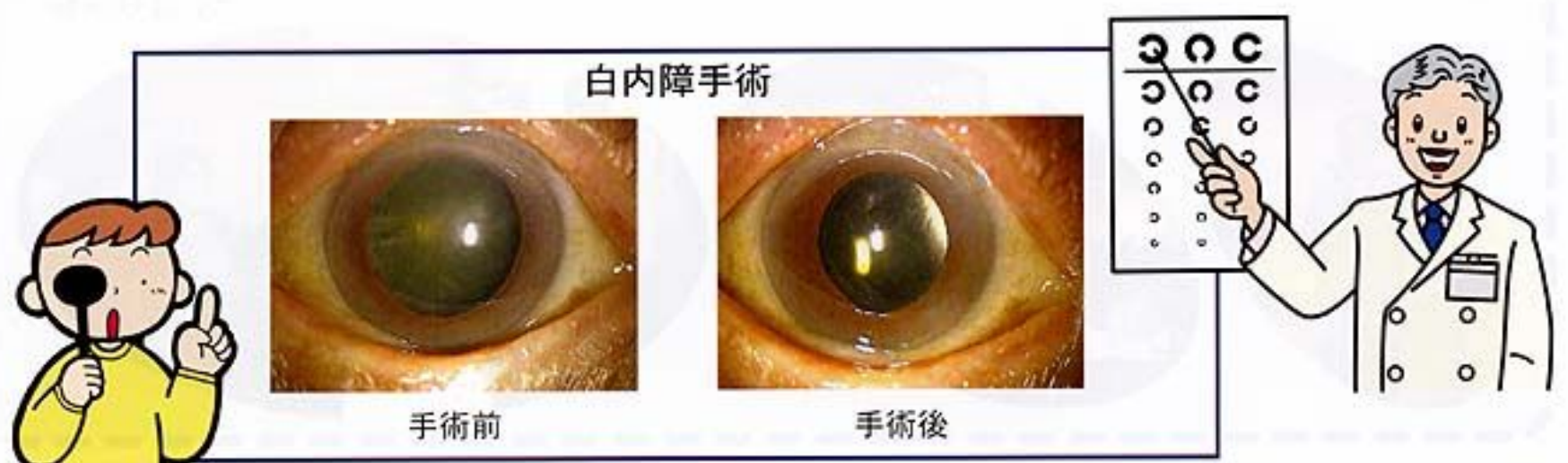
眼の構造はカメラにたとえて説明されることがあります。カメラにはピントを合わせるレンズがあります。このレンズが眼の中では水晶体という組織になります。レンズがにごると写真の写りも濁ってしまうように、水晶体が濁ってくると物がはっきりとみにくくなります。そして視力が下がると白内障とよばれる病気になります。白内障の原因の多くは年齢による老化がほとんどです。その他の原因としては糖尿病や眼の怪我の経験のある人などは白内障の進行を早める場合があります。

治療には点眼薬と手術治療があります。点眼薬は水晶体の混濁自体が改善できるわけではなく、混濁の進行を減らすことができるところまでです。根本的に濁りを改善しようとする、やはり手術治療ということになります。

白内障手術は当院でも行っており、年間200~300件程度を行っています。術式もなるべく新しいものを採用し、安全に行えるよう努めています。また白内障手術は近年、切開創が小さくなってきており、術後の切開創からの術後合併症は軽減されているといわれています。

しかし手術後に注意しなくてはならない合併症が完全になくなったというわけではありません。そのひとつに術後細菌性眼内炎というものがあります。これは手術後に切開創から眼の中に細菌が侵入してしまい、眼の中に感染症を引き起こしてしまう病気です。白内障の術後細菌性眼内炎の頻度は3000人に1人程度といわれています。一見ほとんどない合併症に感じますが、年間に白内障手術をする人は全国では何万人もいますので、裏を返して言うと、必ずどこかでは起こりうる合併症として注意することが必要です。対策として一般に言われていることは、術後の洗顔制限（1週間程度）、眼をこすらない、指示されたとおりに点眼を行うなどです。当院でもこのようなことを患者さんに理解してもらったうえで手術治療を行っています。

現在、眼科クリニックでは白内障手術が日帰り手術で行えるところも増えてきています。済生会西条病院眼科では、日帰り白内障手術までは対応できておりません。眼科クリニックと役割を分担し、術後管理がより重要な方を中心に治療していくことを目的に入院で手術をしています。片眼なら4日間、両眼なら6日間入院のスケジュールで治療をしています。



今回は白内障について書かせていただきました。眼の病気は他にもたくさんあります。目の不調を感じておられる方は、眼科を受診するようにしてご相談ください。

(本稿とは異なりますが地震で被災された方にはこころよりお見舞い申し上げます)

目薬の正しい使い方

- ① 目薬をさす前に手を洗ってください。
- ② 指で頬の少し上を下にひっぱり、容器の先が眼やまぶたにつかないように目薬を“1滴”落としてください。
- ③ 薬をさした後は、“5分間”目を閉じてください。

注意すること

- ・目薬は1回に“1滴”で十分です。
 - ・目の中には“1滴”しか入りません!
 - ・2種類以上の目薬をさすときは、5分程度あけてからさしましょう。
 - ・目から流れ出た目薬はティッシュペーパーなどで拭き取りましょう。
 - ・開封して1ヶ月以上たった目薬は、捨てるようにしましょう。
 - ・他人の目薬や古いものは使わないようにしましょう。
 - ・目薬は温度や光で成分が変化し、効果が低下することがあります。
- 目薬用の袋に入れて直射日光の当たらない涼しい所で保管しましょう。
- ・冷所保存の目薬は、開封前のものは冷蔵庫で保管しましょう。



ご不明な点がございましたら、主治医や薬剤師にお尋ねください。

新入職員歓迎会

今年の春は肌寒く、震災の影響もあり、あまり騒ぐ気持ちにはなれません。しかし済生会西条病院で新しい一歩を踏み出す新入職員と語り合う貴重な機会。今年もアサヒビール園で新入職員歓迎会が開かれました。

岡田院長の挨拶の後、小野事務長の乾杯で始まった歓迎会。ジンギスカンを囲み、先輩・同期と肩寄せあって生ビールを飲む幸せ。どうかいつまでもこの頃の気持ちを忘れず、済生会人としての人生を歩んで行って欲しいものです。ちなみに私が入職した7年前の歓迎会もここでしたが、その時同席した先輩とは今も同じ部屋で仕事をしています。当時、ダイエットに励み、目の前で焼けるお肉を憎らしく思ったのですが、メタボとなった今でもやはり目の前で香ばしく焼けるお肉を口にできないのは辛いものがあります。新入職員のみなさん、初心忘れるべからず。いつまでも真っ直ぐ健康でいましょうね。

by ばらっち



看護師大募集中

地域医療を支える済生会西条病院で私たちと一緒に働きませんか?

詳しくは当院ホームページをご覧ください!! <http://www.saiseikaisaijo.jp>

「済生会西条病院」で検索!

済生会西条病院 TEL 0897(55)5100 担当:看護部長 大仲

